

2020年5月28日

経営戦略 説明会

 SUMITOMO CHEMICAL
社長 岩田 圭一



I

業績動向

3

II

中期経営計画の進捗

12

III

今後の持続的成長に向けて

41

I 業績動向

現時点で操業への大きな影響はない

中国

工場 2～3月は低稼働であったが、現在ほぼフル稼働

勤務状況 テレワークにて勤務

韓国

工場 SSLM、東友他、通常稼働

勤務状況 テレワークにて勤務

米国

工場 通常稼働

勤務状況 テレワークにて勤務

イタリア

勤務状況 テレワークにて勤務

サウジアラビア

工場 通常稼働（3,4月定修）

インド

工場 政府指示による全停止から操業再開

勤務状況 テレワークにて勤務

シンガポール

工場 通常稼働

勤務状況 テレワークにて勤務

南米

工場 通常稼働

勤務状況 テレワークにて勤務

各国・各拠点の
状況

I 2019年度 年間業績 vs 前年度 実績

Change & Innovation 3.0: For a Sustainable Future

(単位：億円)

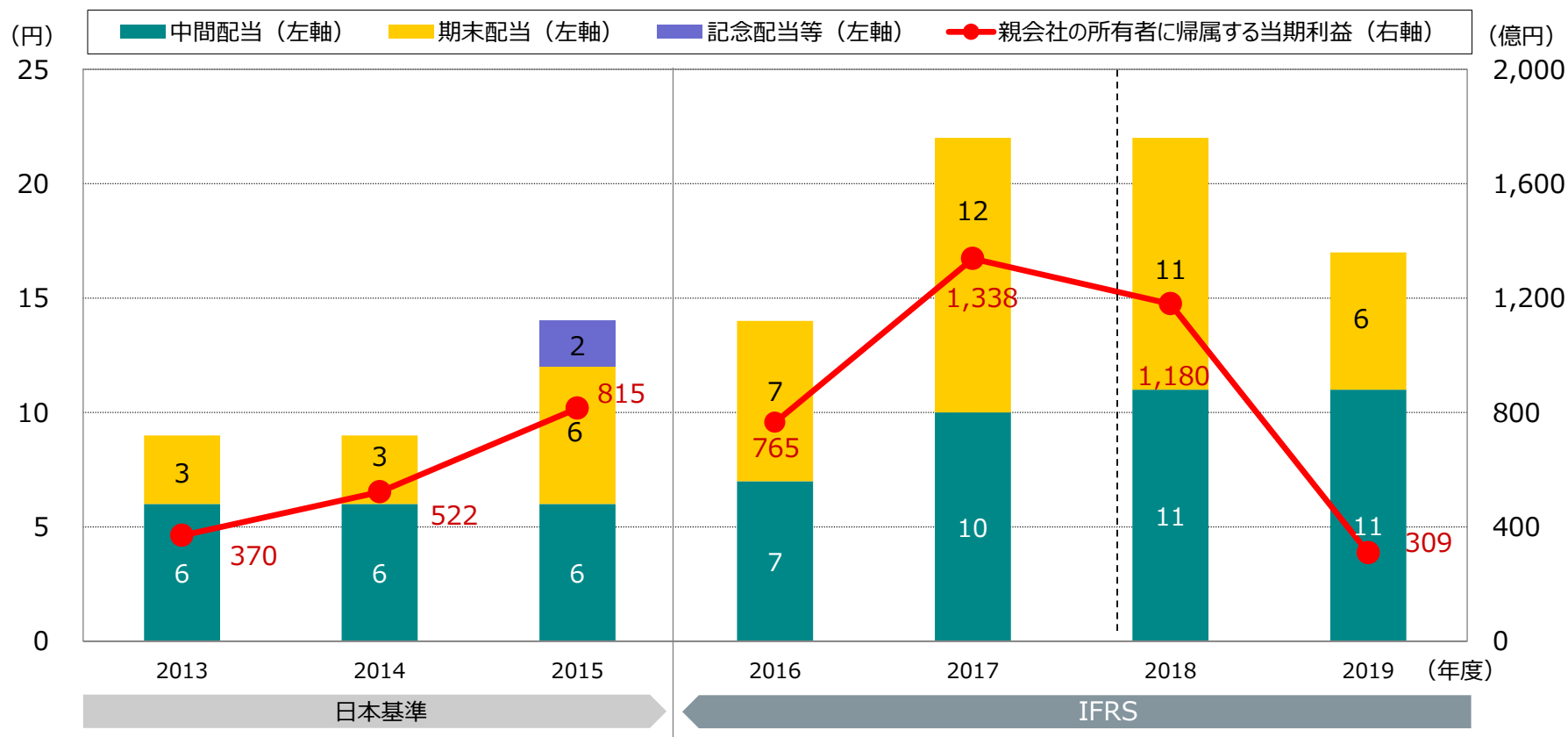
	2019年度 実績	2018年度 実績	差異
売上収益	22,258	23,186	-928
コア営業利益	1,327	2,043	-716
営業利益(IFRS)	1,375	1,830	-455
親会社の所有者に 帰属する当期利益	309	1,180	-871

ナフサ価格	¥43,000/kl	¥49,400/kl
為替レート	¥108.70/\$	¥110.92/\$

(単位 : 億円)

	2019年度 実績	2018年度 実績	差異	差異要因
石油化学	145	616	-471	石化市況下落
エネルギー・機能材料	203	230	-26	
情報電子化学	251	262	-11	
健康・農業関連事業	21	197	-176	メチオニン価格下落、農薬販売減
医薬品	753	808	-55	戦略的提携に伴う先行費用増加
その他	-46	-70	24	
合計	1,327	2,043	-716	

当社は、剰余金の配当の決定にあたり、株主還元を経営上の最重要課題の一つと考え、各期の業績、配当性向ならびに将来の事業展開に必要な内部留保の水準等を総合的に勘案し、安定的な配当を継続することを基本としております。また、当社は中長期的には配当性向30%程度を安定して達成することを目指しております。



<前提>

	2020年度 予想	2019年度 実績
ナフサ価格	¥40,000/kl	¥43,000/kl
為替レート	¥108.00/\$	¥108.70/\$

<業績予想>

(単位：億円)

	2020年度 予想	2019年度 実績	差異
ベース売上収益 [※]	24,900	22,258	2,642
ベースコア営業利益 [※]	1,300	1,327	-27

+ 不確定減益要因 △200～△500億円

コア営業利益 再計 800～1,100億円

※コロナ影響等の不確定減益要因を考慮する前の売上収益、コア営業利益

(単位：億円)

	2020年度 予想	2019年度 実績	差異	差異要因
石油化学	50	145	-95	石化市況悪化
エネルギー・機能材料	260	203	57	
情報電子化学	320	251	69	
健康・農業関連事業	330	21	309	農薬出荷回復
医薬品	370	753	-383	戦略的提携に伴う先行費用増加
その他	-30	-46	16	
合計	1,300	1,327	-27	

+

不確定減益要因 **△200～△500億円**

① 新型コロナウイルス感染症拡大による影響 ▲150億円～▲350億円

自動車関連需要の減退



- 石化樹脂の出荷減少、市況下落
- 車載電池・タイヤ部材の出荷減少

ディスプレイ関連需要の減退



- スマホ・TV部材の出荷減少

医農薬のライフサイエンス分野では、大きな影響は見込まれない

② その他 ▲50億円～▲150億円

2020年度 コア営業利益への影響（超概算）

▲200億円～▲500億円

原油価格
下落時

プラス方向

石油化学

エネルギー・
機能材料

健康・農業
関連事業

(+) 原燃料採算改善

マイナス方向

ラービグ

(-) エタンメリット縮小

プラス・マイナス相殺により、連結コア営業利益への影響は僅少※

※為替レートや関連事業の規模等により変動する

Ⅱ 2019-2021年度 中期経営計画の進捗

II

2019-2021年度 中期経営計画の進捗 12

1 事業環境の変化 13

2 各事業部門の事業戦略 17

3 大型戦略投資案件の進捗・展望 29

4 次世代事業の創出加速 34

5 デジタル革新による生産性の向上 39

全般

感染症の拡大

世界各地での天候不順

円高の進行

世界経済の深刻な不況

原油価格の下落

環境意識の高まり

地政学関連

米中貿易摩擦の長期化

中東カントリーリスクの顕在化

Brexit問題

日韓関係の冷え込み

ビジネス上の前提

メチオニン市況回復遅延

ポストラツォグ開発遅延

Good News

南米農薬事業始動

INDIFLIN国内上市

ポストラツダ獲得・開発進捗

メチオニン市況反転

ケミカルリサイクル研究開発体制整備

Bad News

新型コロナウイルス感染症の流行

世界経済の深刻な不況

ラービグ業績低迷

石化市況のさらなる下落

赤字・・・本日まで説明

コーポレート	Synthetic biology (合成生物学)	低環境負荷 排水処理技術	
石油化学	ケミカルリサイクル		
エネルギー・機能材料	次世代LCP	固体型電池	
情報電子化学	化合物半導体	フレキシブル ディスプレイ部材	有機EL発光材料
健康・農業関連事業	INDIFLIN™	A2020 除草剤	バイオリショナル
医薬品	Roivant	SEP-363856	再生細胞医薬

II

2019-2021年度 中期経営計画の進捗 12

1

事業環境の変化

13

2

各事業部門の事業戦略**17**

3

大型戦略投資案件の進捗・展望

29

4

次世代事業の創出加速

34

5

デジタル革新による生産性の向上

39

2019-21年度 中期経営計画

アクションプラン・検討課題

進捗状況

- 国内事業の基盤強化 → ● 愛媛にてLNG基地・火力発電所の工事進捗
- シンガポール事業の収益力強化 → ● **MMAの第2プラントを再稼働**
- PRCのⅠ期安定維持、Ⅱ期戦力化 → ● Ⅰ期安定操業継続、**Ⅱ期商業運転開始**
- ライセンス事業強化 → ● インド向けPOライセンス契約締結
● **触媒新工場完成、稼働開始**
- 低収益事業の構造改善 → ● 低採算品目の取引条件見直し
- 持続可能な社会の実現に向けた循環炭素化学に関する研究開発 → ● **ケミカルリサイクル研究開発体制拡充**
● **積水化学、室蘭工大等と協業や研究を開始**

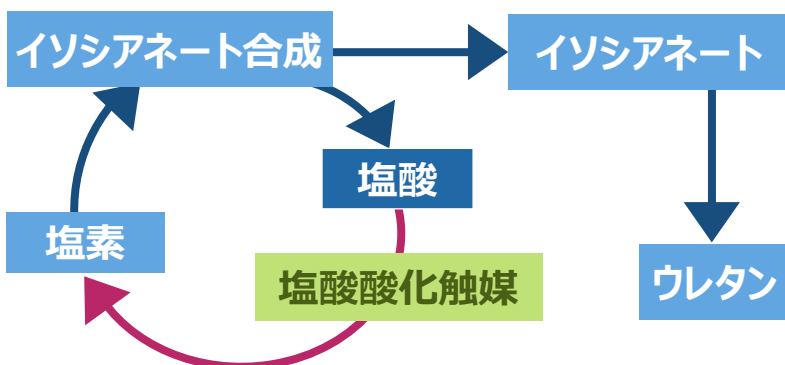
ライセンス事業の強化

プロピレンオキサイド単産法

2019年：インド国営石油会社にライセンス供与

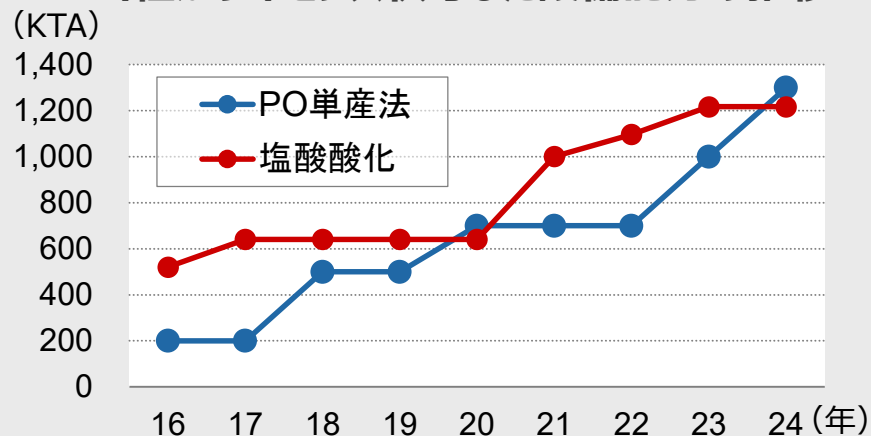
- 副産物を発生させない
- 収率が高く環境負荷が小さい

塩酸酸化



- 副産物を原料へリサイクル
- 大幅な省エネルギー

当社がライセンス供与した設備能力の推移



触媒工場増強完了（千葉）



稼働開始時期

PE・PP
触媒 19年度2Q

PO
触媒 19年度3Q

ライセンス供与および継続的な触媒販売により、安定的な収益を確保

2019-21年度 中期経営計画

アクションプラン・検討課題

- コア事業製品（電池部材、スーパーエンブラ等）の拡販、研究開発の加速
- 高付加価値製品シフト



- 低採算事業・製品の収益改善
- 環境・エネルギー・高機能材料分野における新規事業創生



進捗状況

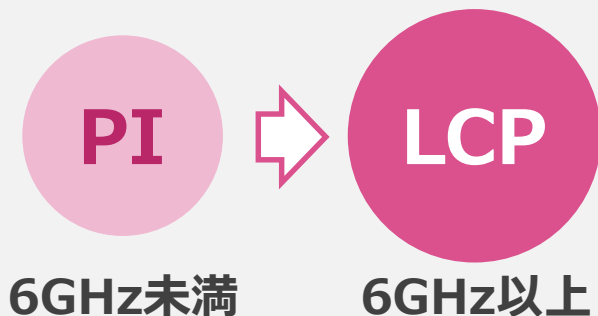
- 欧州電池メーカーとの販売/製造技術支援契約の締結（正極材前駆体）
- データセンター向け高速伝送用コネクタ用途、高速充電器用途等の拡販（SEP）
- コンパウンド加工・研究開発を担う合併会社設立（SEP）
- EPDM等での高付加価値製品シフト
- 次世代電池部材の開発加速（京都大学に産学共同研究講座開設）

5G × CASE

高周波用途での需要増

高周波帯が使われる5G通信では、より低誘電率、低誘電正接の基板材料が必要

▶▶▶ LCPの特徴に合致



自動車部品の金属代替

- スーパーエンブラの成形加工性や機能を活かしたデザインを提案

軽量化

小型化

静音化

- 自動車用途採用件数

2015年	1.5倍	2019年
19件	▶	28件

▶▶▶ 実用化は着実に進行中

2019-21年度 中期経営計画

アクションプラン・検討課題

進捗状況

● 偏光フィルム事業の高付加価値化



- 自製塗布型位相差使用偏光フィルムの拡販、自製液晶塗布型偏光子によるハイエンド分野拡大
- 車載分野への本格参入

● 半導体材料事業の先行投資を活かした確実な需要の取り込み



- 半導体用プロセスケミカル工場新增設稼働開始（常州・西安）
- **フォトレジスト新工場完成、20年度稼働**
- **フォトレジスト開発・評価体制強化決定**

● タッチセンサーパネルの製品ポートフォリオ拡充



- 5Gアンテナ等次世代製品開発に注力

● 次世代事業の育成



- フレキシブル部材(ウィンドウフィルム)本格量産化、機能統合部材開発進展
- 5G通信インフラ用途の需要増に応じたGaNEピ ウェハ販売拡大
- 高分子有機EL発光材料量産化

半導体市場

AI 5G

先端半導体の需要は
中長期的に伸長年率 **6%**先端デバイスのトレンド
配線微細化／多層化

当社の中長期取り組み

生産能力増強

半導体用洗浄液[中国]

2019年 稼働

フォトレジスト[日本]

2020年 稼働

EUVレジスト 近く量産予定

高機能ケミカル事業拡大

- ▶ 特色ある高機能品の開発、販売拡大
- ▶ ロジック／メモリ以外のLSI用途に向けた開発、販売拡大

GaNエピウエハの事業拡大

半導体材料事業の売上収益 2021年度 **1.5倍**※へ

※2018年度比

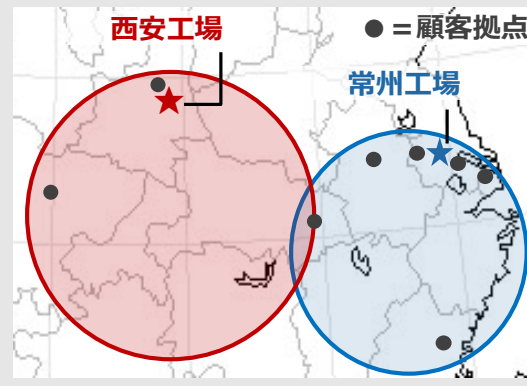
フォトレジスト開発・評価体制の構築

最先端品の本格供給に向け

新棟建設、新評価設備導入

2022年 稼働

中国東西2拠点から顧客対応



2019-21年度 中期経営計画

アクションプラン・検討課題

進捗状況

● 新規農薬の着実な開発・上市



- 農業用殺菌剤ピリダクロメチル国内登録申請完了
INDIFLIN™ 国内登録取得
- 設備改造によるINDIFLIN™製造設備完成

● アグロ事業のGlobal Footprint確立



- **Nufarm南米子会社4社の買収完了**
- インド農薬関連子会社2社の統合完了

● バイオラショナル事業の強化・拡大



- 北米でのマーケティング・販売体制整備

● メチオニンの販売拡大・収益構造強化



- 拡販、設備集約によるコスト削減

● 生活環境事業のグローバル展開強化



- ボタニカル製品のグローバル戦略推進

● 核酸医薬事業の基盤構築と技術拡張



- 長鎖核酸の製造技術確立と事業化推進

B2020

化合物	用途	実用性評価	本格開発	登録審査	上市
INDIFLIN™ (インピフルキサム)	農業用殺菌剤 ダイズさび病 等		☑ 開発試験了	☑ 国内登録取得	2020年国内上市 2021年南米上市 予定
PAVECTO™ (メチルテトラプロール)	農業用殺菌剤 コムギ葉枯れ病 等		☑ 開発試験了	☑ 申請済	
アレス™ (オキサゾスルフィル)	農業用殺虫剤 水稻主要害虫 等		☑ 開発試験了	☑ 申請済	
商品名未定 (ピリダクロメチル)	農業用殺菌剤 畑作・野菜病害		☑ 開発試験了	☑ 申請済	

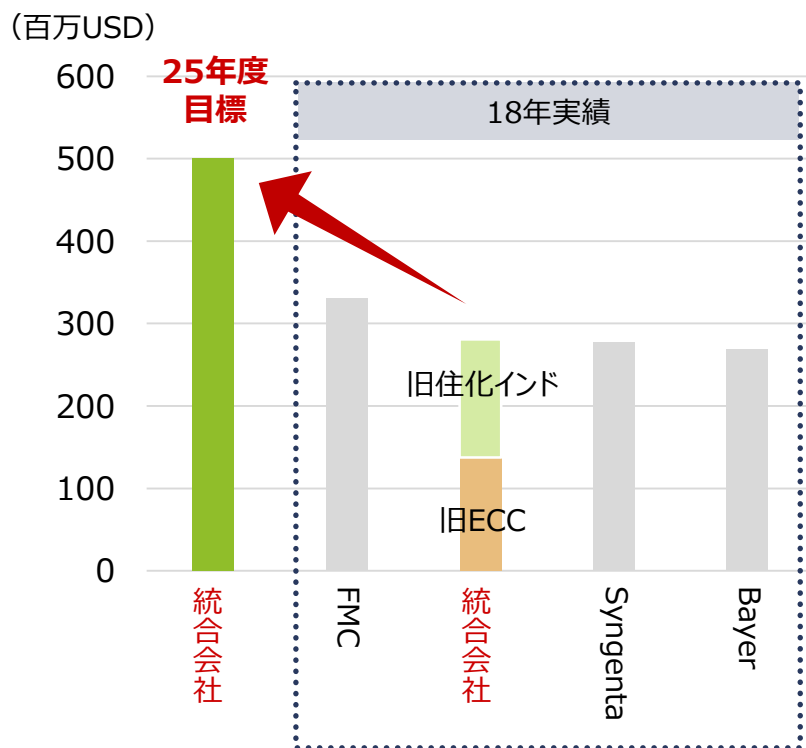
A2020

パイプラインA	農業用植物生長調整剤			☑ 申請済	
パイプラインB	次世代雑草防除体系用 除草剤		本格開発 進展中		
パイプラインC	農業・家庭防疫用 ボタニカル殺虫剤		本格開発 進展中		
パイプラインD	農業用殺虫剤難防除害 虫対策	実用評価 進展中			

ポテンシャル売上高 1,500億円～2,000億円

インド農薬市場

年平均**7~8%**成長



統合シナジー効果の実現に向けた取り組み

- **新規混合剤の登録申請を2020年に複数件予定**
当社の農薬と旧ECC社が保有していた後発薬を組み合わせた混合剤を開発
- **デジタルマーケティングの推進**
SNSやスマホアプリを活用し、小規模農家の多いインドで末端顧客への拡販
- **バイオリショナル事業の強化**
ベラント・バイオサイエンスとの密接な連携により新規製品導入等を推進

成長著しいインド農薬市場でトップメーカーを目指す

2019-21年度 中期経営計画

アクションプラン・検討課題

- ラツェダLOE（独占販売期間満了）後の収益力維持
- 創薬力の強化と研究開発成功確度の向上
- 新たな創薬アプローチによるイノベーション基盤強化



- がん領域での事業化
- フロンティア領域の探索
- セラノスティクス事業の推進と既存放射性医薬品事業の価値最大化



進捗状況

- Roivant社との戦略的提携
 - ◆ 後期開発品獲得
 - レルゴリクス：欧州で承認申請（子宮筋腫）
 - 米国で承認申請（前立腺がん）
 - ビベグロン：米国で承認申請（過活動膀胱）
 - ◆ DrugOmeなどデジタル革新を加速する基盤技術獲得
- **パーキンソン病用舌下フィルム製剤 承認取得**
- ナパブカシン（結腸直腸がん）試験継続
- 認知活性化療法や生体センシング技術を用いたヘルスケアソリューション研究の推進
- **放射性医薬品の研究開発拠点が2020年に稼働開始**

製品上市目標

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
	ナバブカシン (結腸直腸がん)			
	レルゴリクス (前立腺がん)			
アポモルヒネ (パーキンソン病に伴う オフ症状)	RVT-802 (小児先天性無胸腺症)	他家iPS細胞由来 細胞医薬 (パーキンソン病) ※2	SEP-363856 (統合失調症)	
ラゾーダ (統合失調症/ 双極性障害うつ) 2020年3月承認取得	レルゴリクス (子宮筋腫)	他家iPS細胞由来 細胞医薬 (加齢黄斑変性) 上市目標見直し中 ※2	alvocidib (MDS) ※1	dubermatinib (TP-0903) (固形がん) ※1
ビベグロン (過活動膀胱)	イメグリミン (2型糖尿病)	ナバブカシン (結腸直腸がん)	TP-0184 (固形がん) ※1	TP-3654 (血液がん) ※1

■ : 精神神経領域
■ : 再生・細胞医薬分野

■ : がん領域
■ : その他の領域

■ : ピーク時：グローバル売上が500億円規模またはそれ以上を期待する品目（最初の上市に記載）

※1 迅速承認制度活用を前提（今後、FDAと協議予定）

※2 連携先との合意ではない当社の目標

II

2019-2021年度 中期経営計画の進捗 12

1

事業環境の変化

13

2

各事業部門の事業戦略

17

3

大型戦略投資案件の進捗・展望 29

4

次世代事業の創出加速

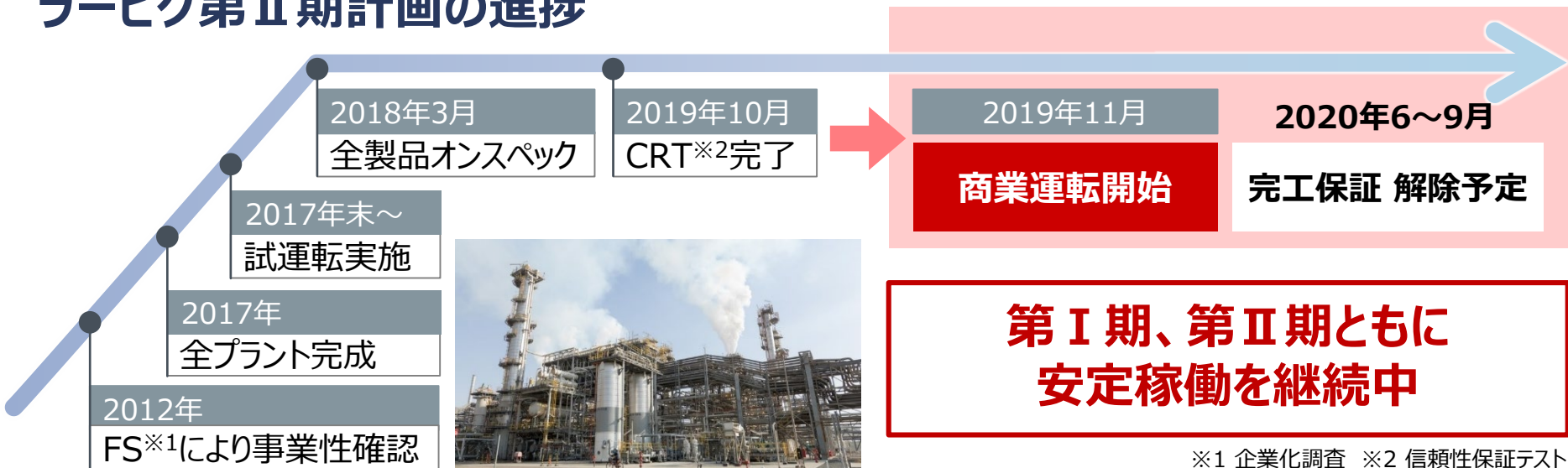
34

5

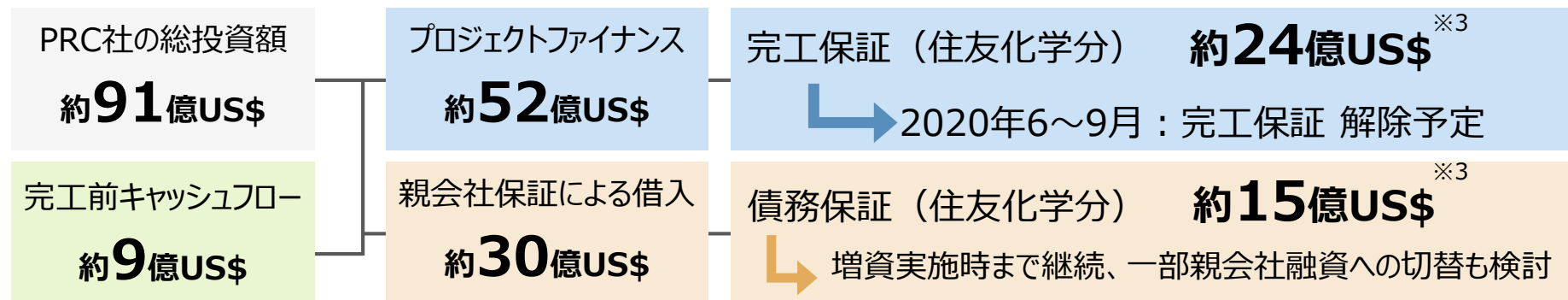
デジタル革新による生産性の向上

39

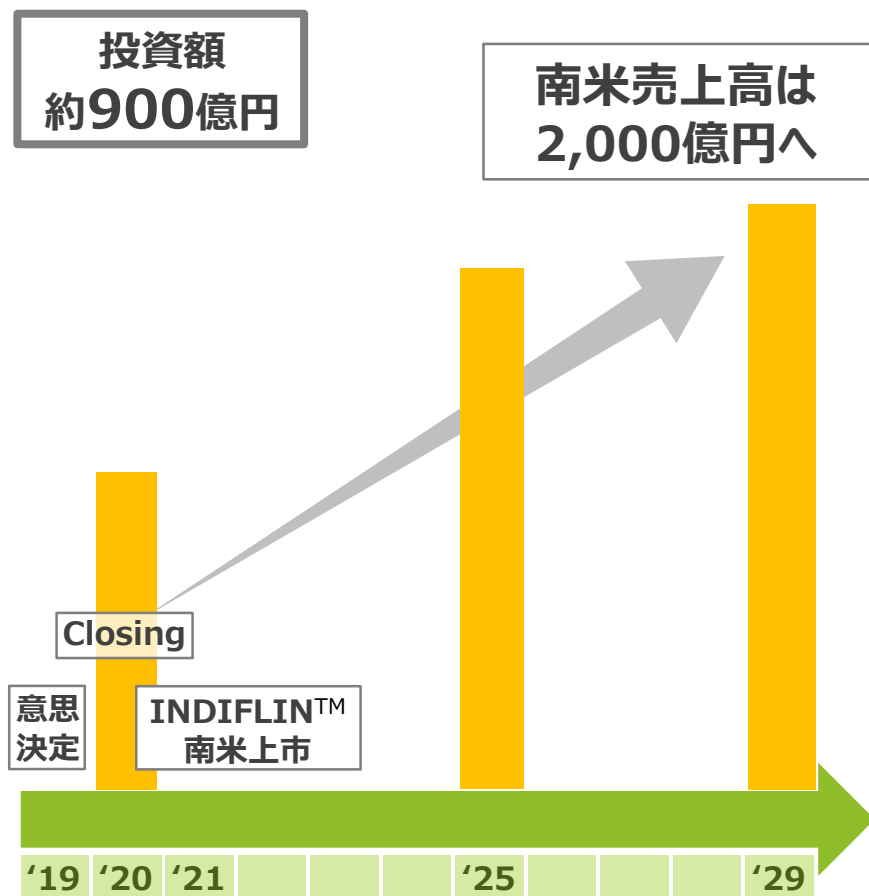
ラービグ第Ⅱ期計画の進捗



投資額と完工保証

※³ 2019年度末

Nufarm の南米子会社4社 (ブラジル・チリ・アルゼンチン・コロンビア) を買収



進捗状況

- 2020年4月1日に Closing完了
- 新経営体制が決定、2020年8月より 一体運営開始予定



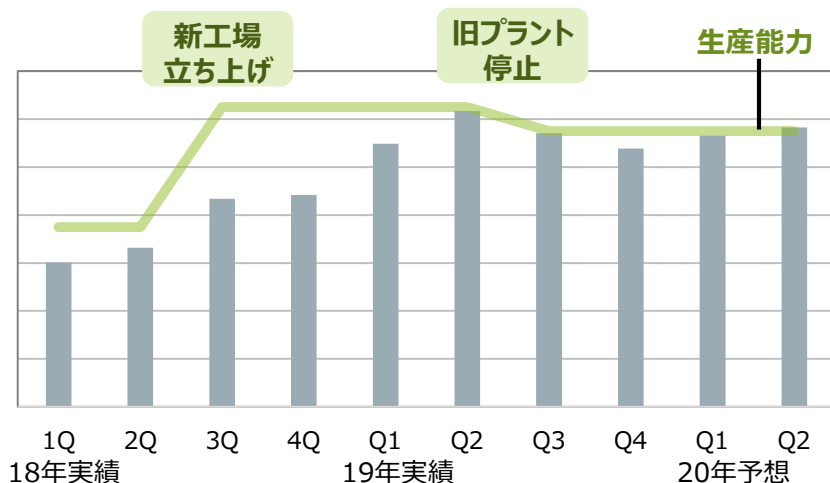
ブラジル・フォルタレザ工場

新薬開発も加速

- INDIFLIN™について、当社開発の製品の申請（2017年）に続き、旧Nufarm社開発の製品も申請完了

▶ 今後は両社一体となることで、さらなる開発加速へ

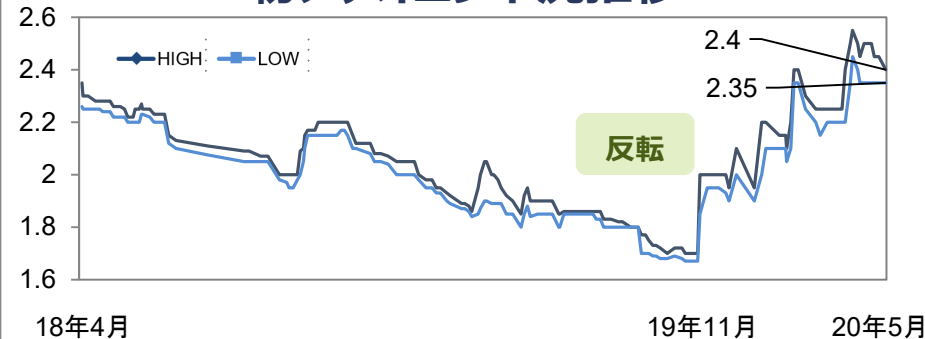
メチオニン販売数量



増強後も生産分は全量販売

- グローバル拡販体制強化
 - 既存地域における拡販 (既存顧客のシェア向上、新規顧客増加)
 - 世界展開している大手飼料会社への販売増加
- 伊藤忠商事との提携を最大限活用
 - 大手顧客へのアプローチと拡販
 - 当社未販売地域への販売 (アフリカ、CIS、中近東)

DDP EUR/kg 粉メチオニン市況推移



Source: feedinfo.com/pages/DL_Methionine_99

収益性改善のための取り組み

- 老朽プラント停止による補修費・維持費削減
- 製造コストの合理化
- 販売関連費用の合理化
- さらなる生産体制の見直し検討 等

年数十億円の
コスト合理化

拡販体制基盤の確立とさらなるコスト競争力強化により収益性の改善を図る

意思決定

Closing

承認・上市

2019年9月

2019年12月

2020年 ~ 2023年

・契約締結

・30億US\$ 支払

・開発/申請

・子会社等の獲得

・プラットフォーム技術の活用

ブロックバスターとして2023年以降の収益の柱へ

投資額：約30億US\$

レルゴリクス：

欧州で承認申請（子宮筋腫）

米国で承認申請（前立腺がん）

ビベグロン：

米国で承認申請（過活動膀胱）

本提携の意義

1 ポスト・ラツェダ候補を含む有望化合物の獲得

- Roivant社傘下の子会社5社が持つ有望な化合物の取得
- Roivant社傘下の子会社6社の株式を取得するオプション※

2 革新的新薬の開発力強化

- Roivant社の革新的なプラットフォーム技術の獲得
- デジタル人材の獲得

※ 一定の条件の下での交渉権



II

2019-2021年度 中期経営計画の進捗 12

1

事業環境の変化

13

2

各事業部門の事業戦略

17

3

大型戦略投資案件の進捗・展望

29

4

次世代事業の創出加速

34

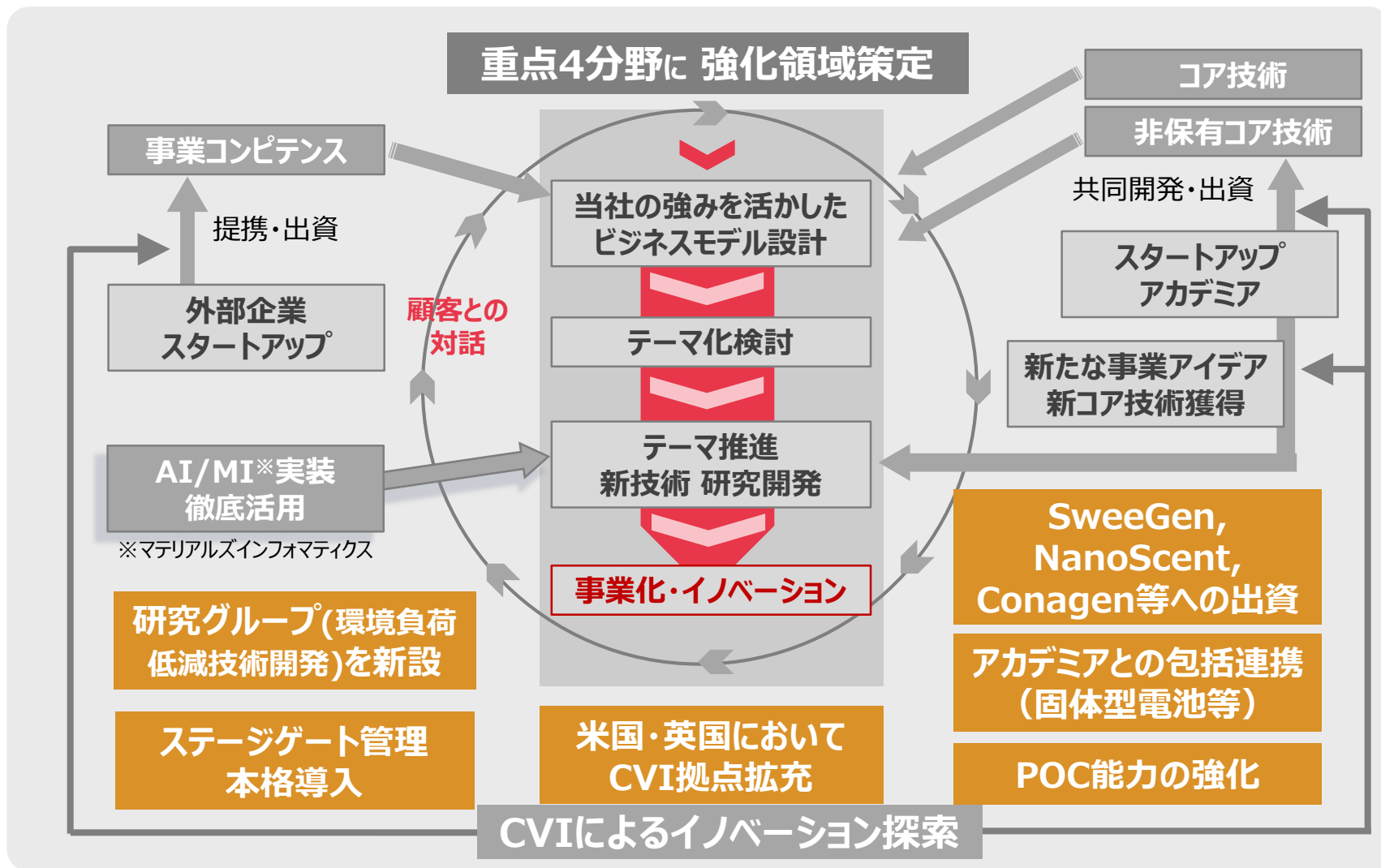
5

デジタル革新による生産性の向上

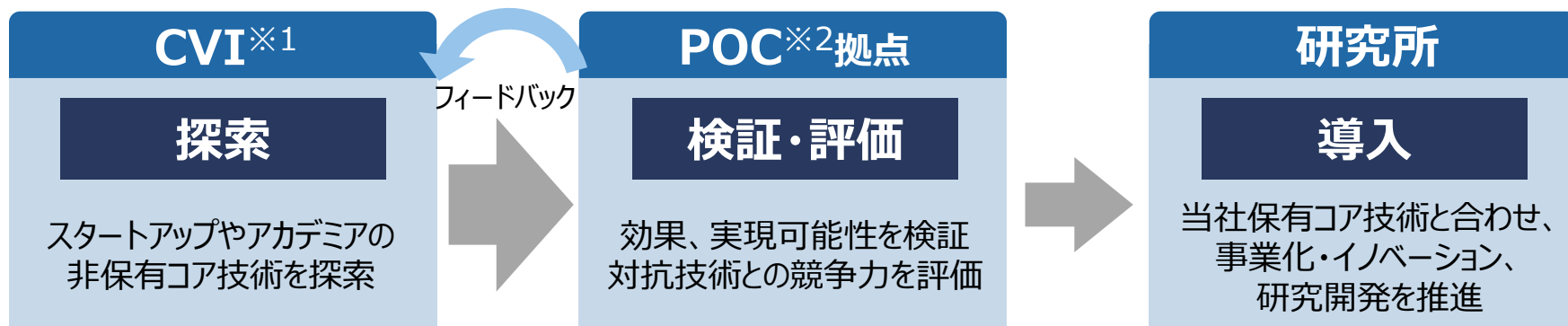
39

2019年度の主な進捗

当社のイノベーションエコシステム



オープンイノベーション —非保有コア技術の探索と検証—



※1 Corporate Venturing & Innovation Office

※2 Proof of Concept

CVIおよびPOC拠点、探索重点地域の拡充



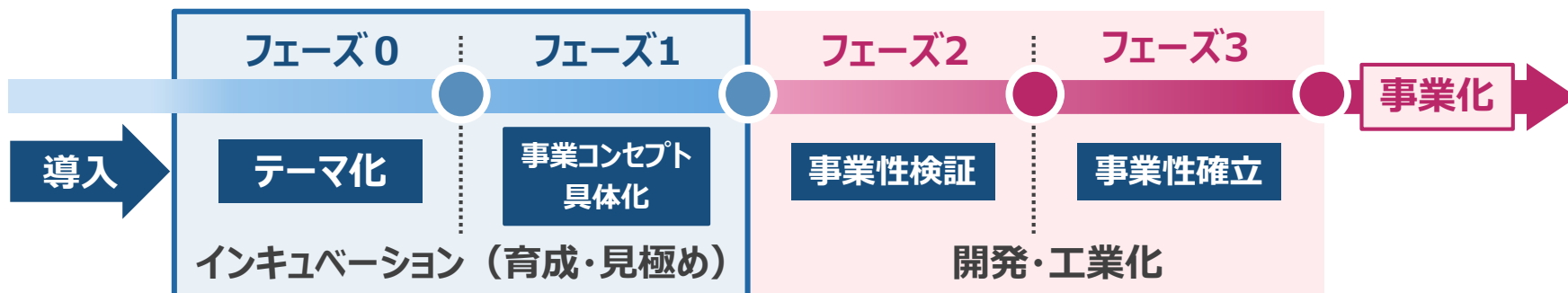
※Cambridge Display Technology社

スタートアップ・アカデミアの探索、および技術の検証・評価拠点を拡充、連携を加速

施策

- オープンイノベーションの拡充
(CVI設置等による社外とのアクセス増加、POC拡充)
- ステージゲート管理制度を本格導入 (2019年度～)

<研究テーマのステージゲート管理>



☑ フェーズ0・1の**インキュベーションテーマ数**が **大幅増加**

50件以上 (昨年度比: **約2倍**)

☑ フェーズ2に進む見通しの強い**質の高いテーマ**も増加

固体型電池、ケミカルリサイクルポリマー、
塗布型液晶偏光板など

米国バイオベンチャー企業へ 出資・共同研究実施

合成生物学の素材開発への応用

特定の機能を持った
微生物を創製

環境配慮型の
生産プロセス開発

革新的な新規
高機能素材開発

新事業の創出を加速



- 微生物設計から量産までの技術・ノウハウを持ち、全体戦略まで含めて協議できる合成生物学分野での当社の戦略パートナー
- 技術者の相互交流、共同テーマ探索により、革新的な技術やプロセス開発につなげる



- Conagen社からの技術ライセンスに基づき、次世代ステビア甘味料の量産・販売体制を確立
- 精製・廃液処理に関する革新的技術開発や高機能素材開発を目指す



- デジタルテクノロジーの活用による画期的な高機能化学品を共同開発

合成生物学と化学技術の融合によるイノベーションを目指す

II

2019-2021年度 中期経営計画の進捗 12

1

事業環境の変化

13

2

各事業部門の事業戦略

17

3

大型戦略投資案件の進捗・展望

29

4

次世代事業の創出加速

34

5

デジタル革新による生産性の向上 39

Plant 電子日報を愛媛・大分工場の全課に導入

プロセスデータ

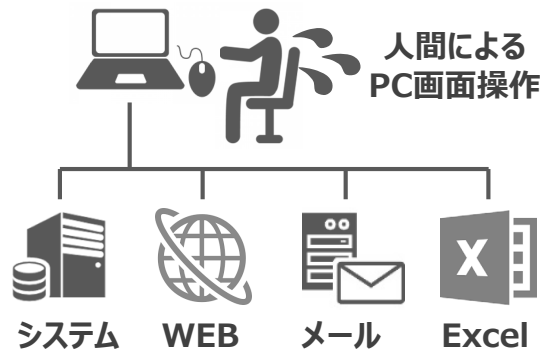
操業情報

データ入力

電子日報システム

業務フロー標準化
ルーティン業務効率化データ
一元管理データ活用
探索迅速化

Office RPA導入による業務自動化



2020年度より全社展開

R&D

マテリアルズ・インフォマティクス (MI)
による材料設計

13種類100万通りの原料の組み合わせ

機械学習の活用

たった10数回の実験で
好適な原料の組み合わせを決定

人材育成の進捗

- ▶ データサイエンティスト
: **14名**予定 (中期目標 **20名**)
- ▶ データエンジニア
: **65名** (中期目標 **150名**)

SCM

S/4HANAの本格導入と
周辺システムの開発

ワークスタイル変革

生産性向上

貿易管理
システムS/4HANA
デジタルデータ基盤

調達システム

コンプライアンス強化

グローバル業務最適化

グローバルデータ利活用

Ⅲ 今後の持続的成長に向けて

Ⅲ

今後の持続的成長に向けて

41

1

長期的な業績見通しと財務体質の改善

42

2

ESGトピックス

50

3

おわりに

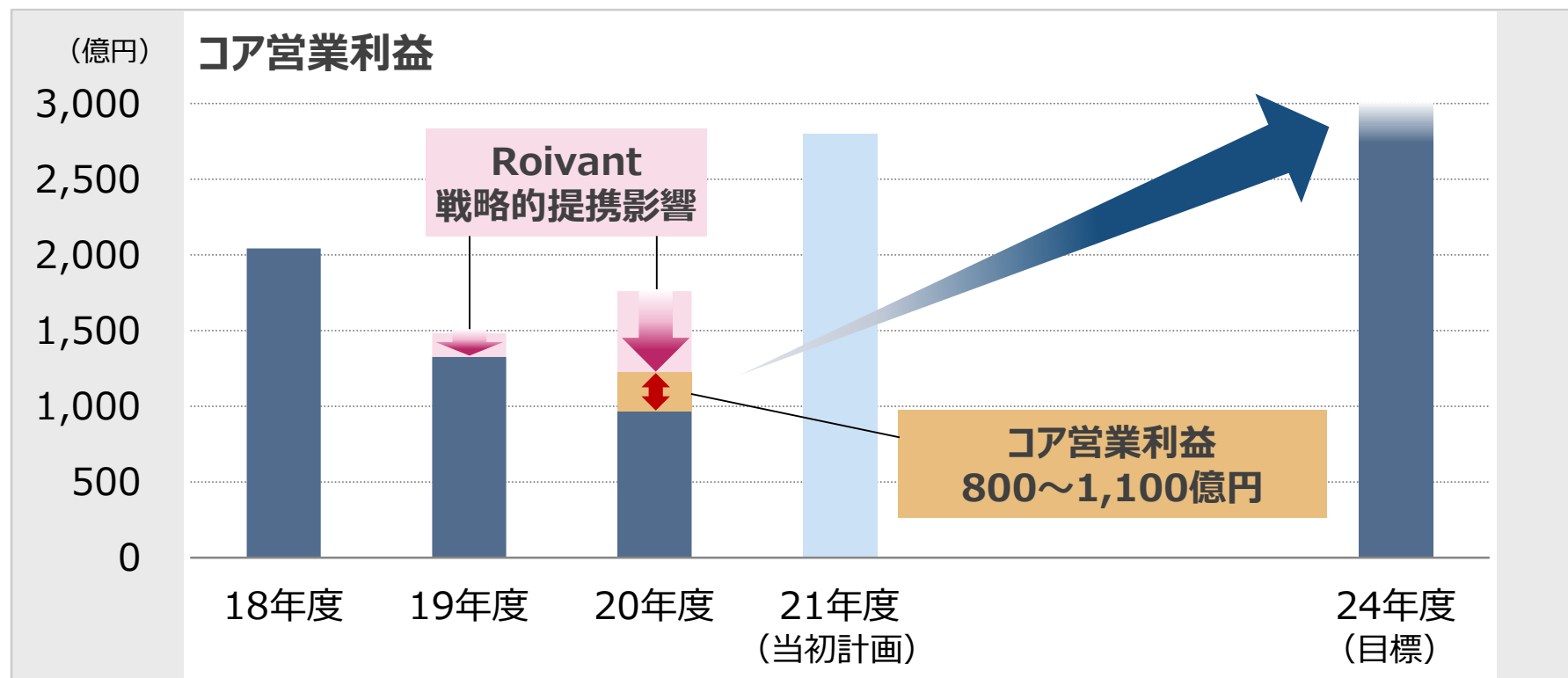
54

21年度での目標達成は困難

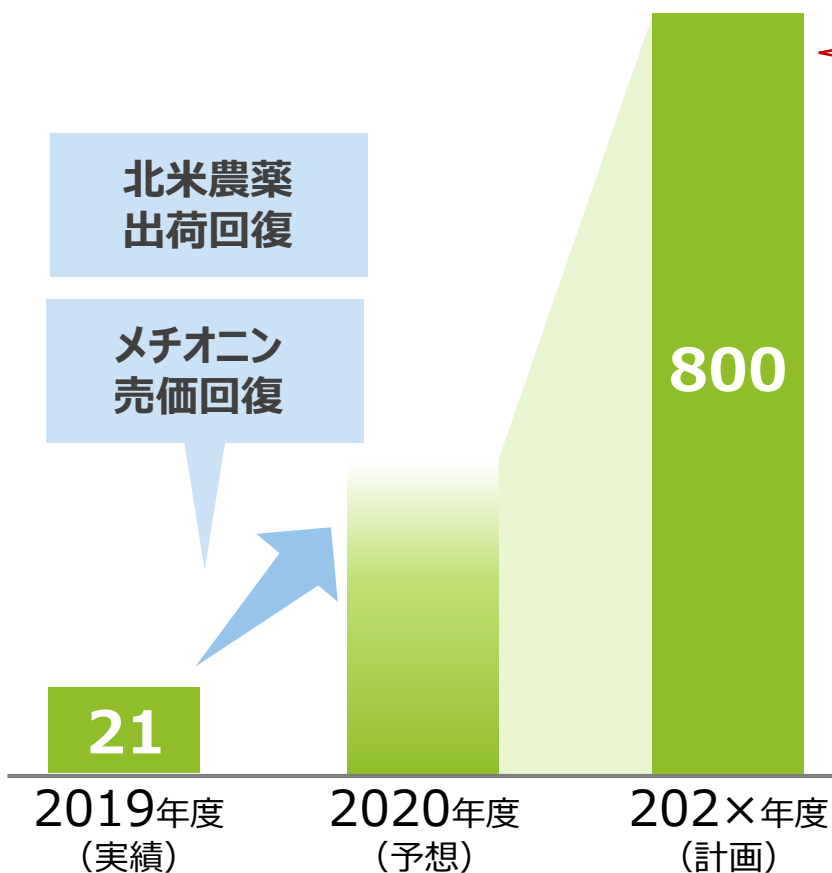
- ☑ 石油化学品市況低迷
- ☑ メチオニン市況低迷
- ☑ ポストラツダ開発遅延
- ☑ Roivant提携による販売費・開発費の先行負担

今後の増益ドライバー

- ☑ 南米、インドを中心とした農薬事業の拡大
- ☑ 医薬新製品の上市
- ☑ 情報電子・エネルギー機能材料の高機能新製品販売



コア営業利益 (億円)



2020年度に一定の回復を見込み、
将来的には **800**億円 を目指す

施策

農薬

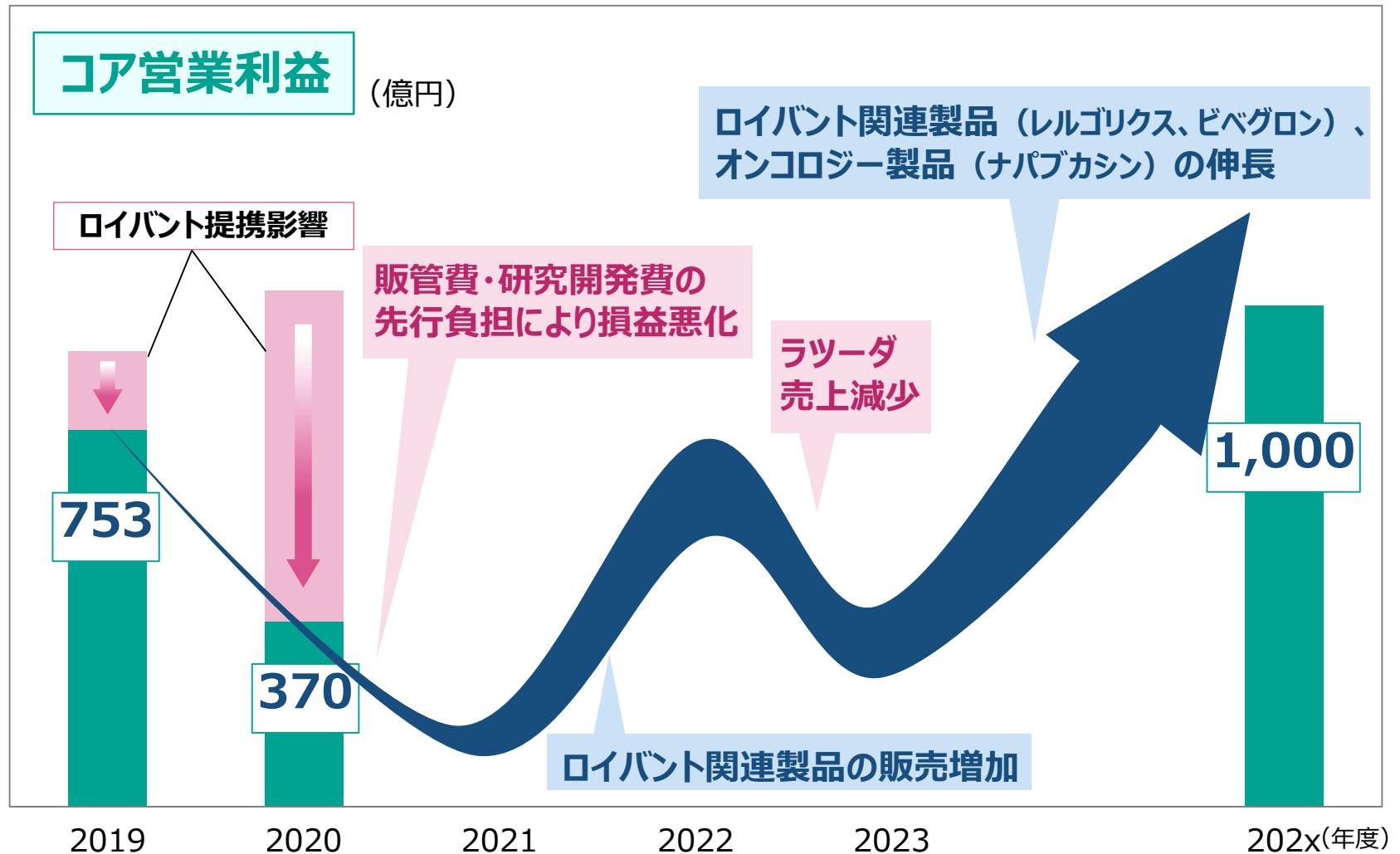
- B2020 (インディフリン等) の着実な上市・拡販
- Global Foot Printにおける直販体制強化
- 種子処理用途の拡大 (Corteva社向・各地域)
- バイオリショナル製品拡大

メチオニン

- さらなるコスト合理化による競争力強化

生活環境

- 業務用分野での製品ポートフォリオ強化
- 家庭用Botanical分野のGlobal展開



投資負担が先行するものの、ラツーダクリフを乗り越え長期的な成長を実現

コア営業利益（億円）

両部門合わせて、将来的に **800** 億円を目指すSEP電子部品
・膜用途拡販フィルムタッチ
センサー拡販2019年度
(実績)2020年度
(予想)202x年度
(計画)

電池部材

- 市場拡大に応じた積極的な投資による事業拡大
- 次世代電池部材の開発加速（固体型電池 等）

5G通信
モビリティ

- SEP：高周波基板材料向けLCP拡販
軽量化に向けた自動車部材での販売拡大
- 高純度アルミナ：半導体関連用途での拡販

ディスプレイ
材料

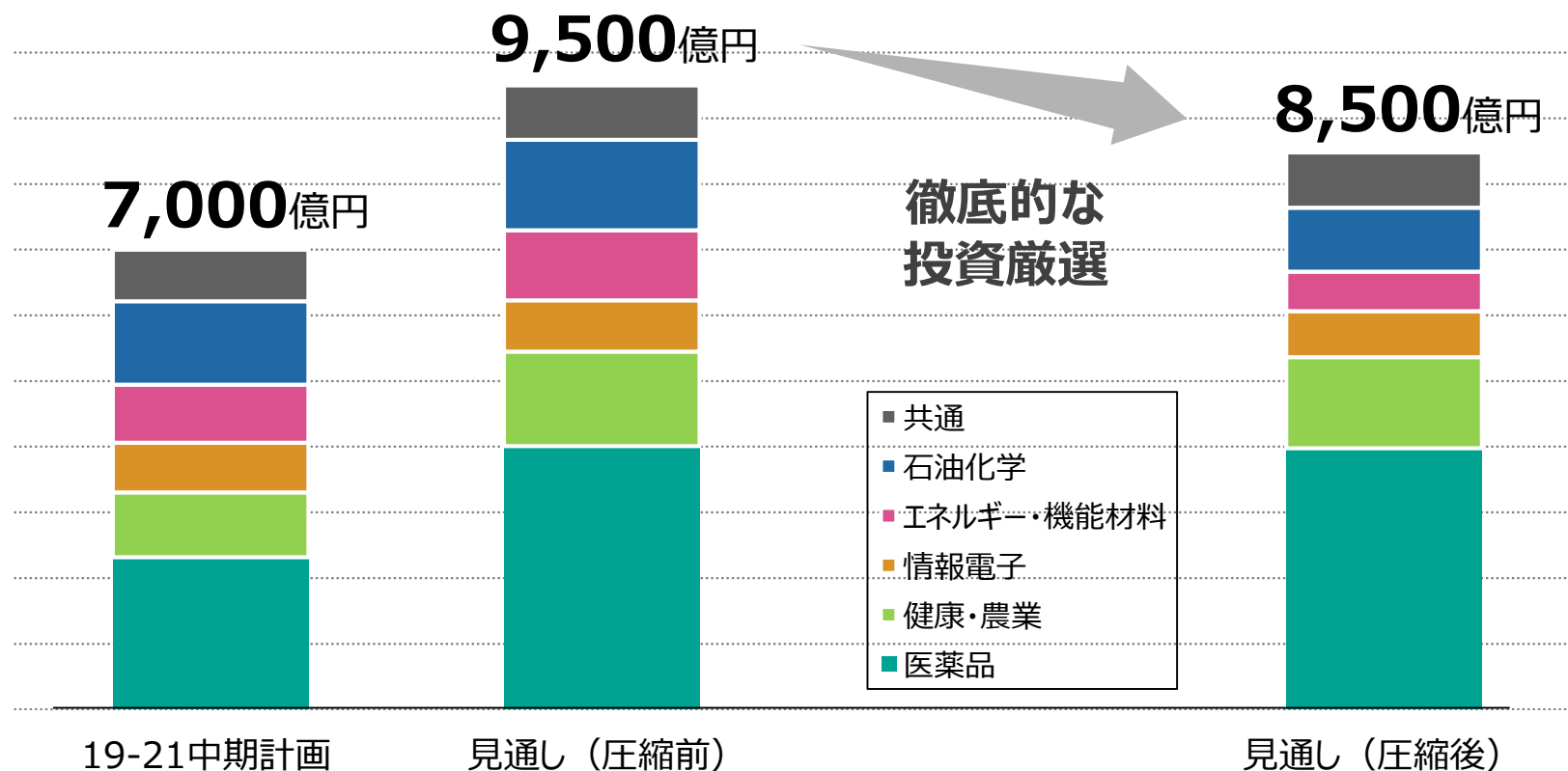
- 高付加価値化の更なる推進
〔フレキシブルディスプレイ用部材の拡販
機能統合部材の上市〕

半導体
材料

- 最先端ロジック／メモリ半導体やその他LSI用途に
対応したフォトレジスト等の高機能ケミカルの事業拡大
- 5G用途に対応した化合物半導体の事業拡大

設備投資・投融資（意思決定ベース）

2件の大型M&Aの決定により、設備投資・投融資は当初想定を上回る水準



資産売却

- ☑ 取締役会での検証の結果、一部の政策保有株式の売却を決定

当社保有上場株式 約850億円※の2割相当 ※2019年度末公正価値ベース

- ☑ その他の資産売却

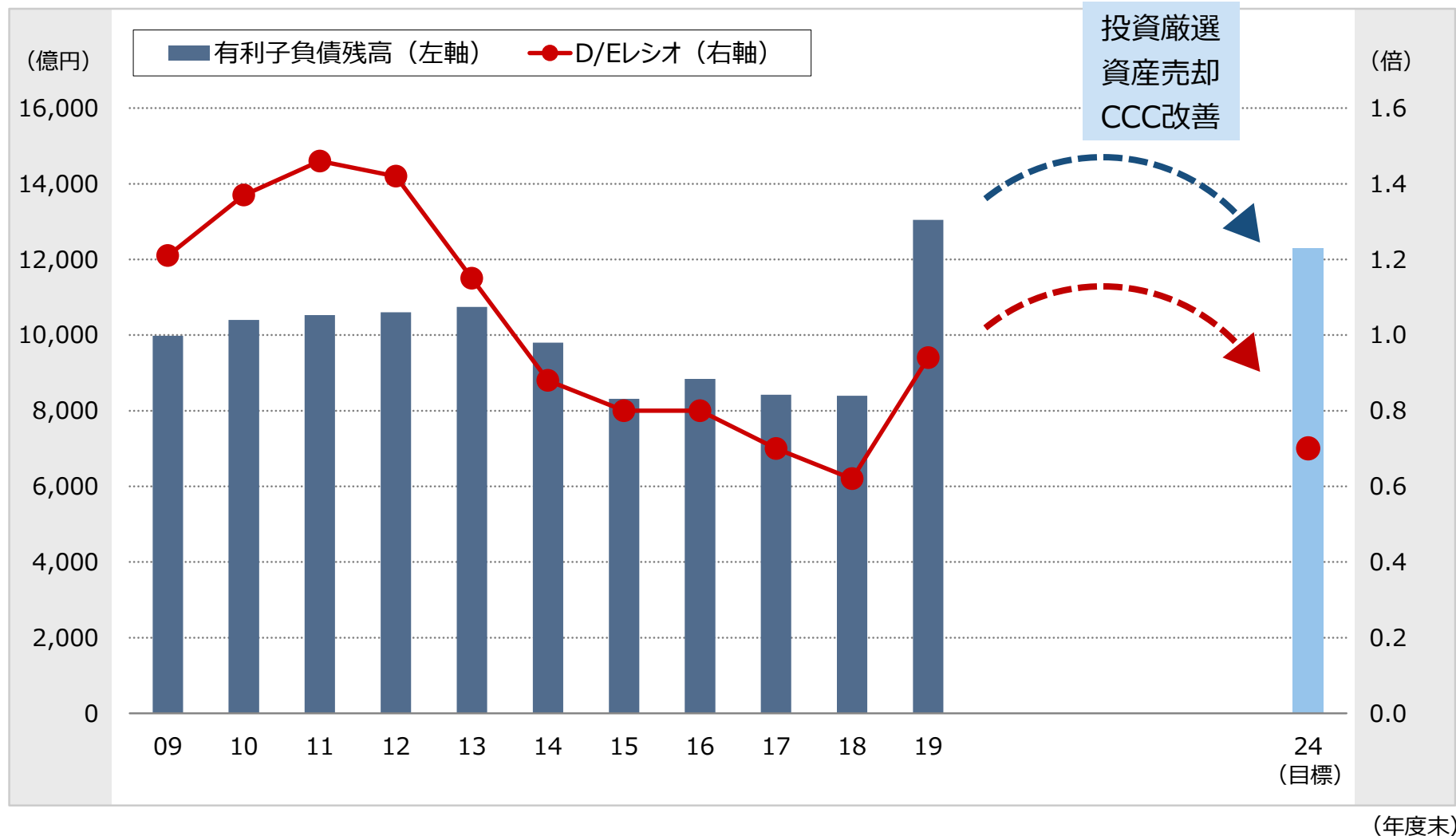
500億円規模

CCC改善

- ☑ 在庫削減を最優先に、段階的に日数短縮を目指す

500億円規模

有利子負債、D/Eレシオの推移



III

今後の持続的成長に向けて

41

1

長期的な業績見通しと財務体質の改善

42

2

ESGトピックス

50

3

おわりに

54

	2017年	2018年	2019年	備考
CDP	B	A	A	最高評価=A
FTSE (総合)	2.8	4.0	4.2	5点満点
MSCI (総合)	AAA	AAA	AAA	最高評価=AAA
MSCI (女性)	5.8	6.2	6.0	10点満点
Ecovadis	Bronze	Silver	Gold	Goldは上位5%

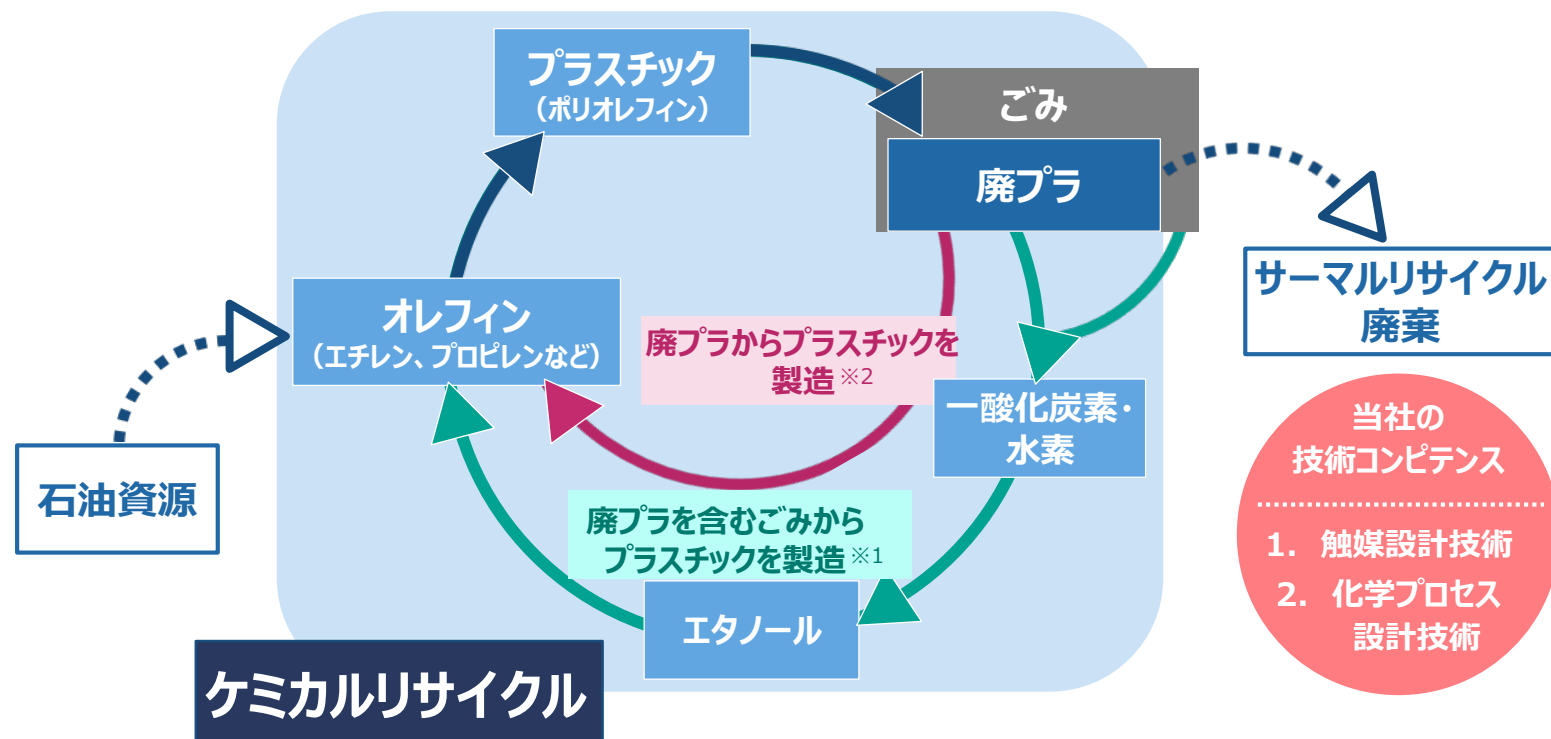
※1 FTSE Blossom Japan Index

※2 MSCI ジャパンESG セレクト・リーダーズ指数

※3 MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)

※4 カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト

※5 Ecovadis Sustainability Ratings



石油資源の代わりに、廃プラやごみからプラスチックを製造

プラスチック製品の使用による、社会課題の解決

フードロス削減、自動車等軽量化による
エネルギー効率向上/環境負荷低減など

ごみや廃プラの利用による、社会課題の解決

石油資源の使用削減
ごみや廃プラの削減、温室効果ガス削減

※1 廃プラスチックを含むごみからエタノール製造を積水化学、エタノールからプラスチック製造を当社が担う

※2 室蘭工大と共同研究



ファビピラビル（アビガン）、
レムデシビルの原料供給



家庭用抗ウイルス性
除菌剤提供



医療用ガウン向け
ポリエチレンフィルムの供給



産業用抗ウイルス剤の提供



COVID-19 Research
Databaseへの参画



万能インフルエンザワクチンの
共同研究



COVID-19診断センサーを
開発するナノセントへ資金提供



天然抽出物由来の
抗ウイルス剤開発



医療防護具の寄付
（N95マスク、ガウン等）



COVID-19 対策
北里プロジェクトへの寄付

化学の総合力を活かして、コロナウイルス鎮静化に貢献

III

今後の持続的成長に向けて

41

1

長期的な業績見通しと財務体質の改善

42

2

ESGトピックス

50

3

おわりに

54

中期経営計画 基本方針

2020年度に重点的に取り組む事項

✓ 事業ポートフォリオ高度化への注力



コロナ不況下での収益力の維持
多様な事業構成が生む抵抗力の強化

✓ 大型M&Aの統合プロセス（PMI）の確実な実施

住友化学は「経済価値」「社会価値」を一体的に創出



環境負荷低減



食糧問題



ヘルスケア分野



ICTの技術革新

**事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献****-ステークホルダーの皆様とこの夢を共有-**

注意事項

本資料に掲載されている住友化学の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた情報にもとづき算出したものであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等に重大な影響を与えうる重要な要因としては、住友化学の事業領域をとりまく経済情勢、市場における住友化学の製品に対する需要動向、競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場において住友化学が引き続き顧客に受け入れられる製品を提供できる能力、為替レートの変動などがあります。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。